



◀招魂社の様子



そのにぎわいは昭和30、40年代も続き、住民も多く、学校では、1クラス50人以上の同級生がいました。

また、現在の二荒山神社下之宮辺りには招魂社があり、小高い丘の広場になっ

この付近は、江戸時代に千手院という千手観音像を祭る寺院があったことから、町名が起こったといわれています。鍛冶屋や古着屋が建ち並ぶ細い通りでしたが、明治時代に宇都宮駅への道が整備され、にぎやかになりました。

しかし、昭和50年代ごろから、多くの人や店が郊外に移ってしまい、寂しくなっていました。最近では、大型のマンションが建築されたり、自転車のレースやジャズのイベントが開催されるなど、まちなかに住む人や遊びに来る人が少しずつ増え、にぎわいを取り戻しているな、と感じています。

これからも、宇都宮らしいまちなかでの生活文化を守りながら、歩いて暮らせる楽しいまちをつくっていきたいと思います。



古いまちの呼び名と  
ごぼれ話を紹介します



二荒町  
和氣 幸雄さん